

たまのよこやま

遺跡だより

練馬区

今月の逸品 Returns!! 6
大泉中里遺跡 8

令和6年度企画展「なつとび」
「なつとび」

調査員の研究ノート

調査研究員

藤丸亮介

4

2



練馬区大泉中里遺跡（練馬区 No.17 遺跡）は、練馬区北西部の大泉町二丁目に所在し、白子川中流域の右岸崖線上に立地する遺跡です。今回の調査は、補助第230号線（大泉町）道路整備に伴うもので、平成31年2月から令和元年11月にかけて当センターが実施した調査（第四次調査）に続く第五次調査にあたります。今回の調査では、これまでの調査成果と同様に、旧石器時代の遺物集中、縄文時代早期後半の竪穴住居跡の可能性のある遺構、炉穴、縄文時代中期後半の集石、土坑、ピットなどのほか、近世以降の畝間溝等の農事関連遺構が検出されました。

旧石器時代では、関東ローム層のⅣ層下部からⅤ層上部から、多量の焼けた礫のほか、黒曜石の角錐状石器（写真1左）や黒色頁岩のナイフ形石器・剥片が出土しました。3ヶ所の遺物集中（写真1右）は全て標高の高い北西側に集中しており、これは第四次調査と同様の傾向です。

縄文時代早期後半の炉穴（写真2）は、複数基が隣

接または切り合った状態で検出されました。炉穴からは、縄文時代早期後半の土器である貝殻条痕文土器が出土しています。そのほか、竪穴住居跡の可能性のある遺構も複数検出されていますが、明確な床面は確認できませんでした。

縄文時代中期後半の集石（写真3）は、多量の焼けた礫とともに、加曾利 E3 から E4 式の土器片が出土しました。礫の広がりを見ると、中心は1箇所だけではなく、いくつかの集石が集まっていることが推測されます。

近世以降の農事関連遺構としては、畑の畝の両脇に位置する畝間溝が検出されました。さらにその下層では、関東ローム層の地山を溝状に掘削して黒色土に入れ替えた痕跡がいくつも確認されました。酸性土壌であるローム層は畑作に向かないため、畑作に適した土壌改良がおこなわれたと考えられます（写真4）。

現在進めている二次整理作業で、調査の詳細な成果を明らかにしていきます。（守屋 亮）



写真1 旧石器時代の角錐状石器と遺物集中（東から）



写真2 縄文時代早期の炉穴（南西から）



写真3 縄文時代中期の集石（南西から）



写真4 近世以降の農事関連遺構（西から）

※今号の表紙：蛇体把手土器各種（多摩ニュータウン No.46 遺跡、No.67 遺跡、No.72 遺跡）

